

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：25302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593466

研究課題名(和文) 要援護高齢者のソ - シャルサポートに関する研究

研究課題名(英文) A Study on Social Support in Elderly Adults with Care Needs

## 研究代表者

矢庭 さゆり (YANIWA, SAYURI)

新見公立大学・看護学部・教授

研究者番号：40390249

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は要援護高齢者におけるソーシャルサポートと精神的健康との関連を明らかにすることを目的とした。地域の要援護高齢者を対象に2度の質問紙調査を実施した。調査の結果、地域高齢者と比較して要援護高齢者は自尊心が低く社会的孤立のリスクが高いこと、ソーシャルサポートの受領と提供のバランスが不均衡であることが明らかになった。ソーシャルサポートは要援護高齢者の自尊心や精神的健康を維持・回復・増進する上で重要な因子である可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the study was to examine the associations between social support and mental health in elderly adults with care needs. Two questionnaire surveys for frail elderly adults showed social support variables such as social networks and equity of social supports were significant predictors of depression and self-esteem. Findings suggest that social support could play a important role to maintain and improve the status of mental health in frail elderly persons.

研究分野：地域看護学

キーワード：要援護高齢者 ソーシャルサポート 精神的健康 自尊心

## 1. 研究開始当初の背景

これまでの高齢者を対象としたソーシャルサポート研究では、家族や友人、近隣の人などの個人を取り巻く様々な人からのサポートの受領が高齢者の心身の健康にどのような影響を及ぼすかについて関心が払われてきた。多くの研究において、他者から受けたサポートの心身の健康に対する直接効果や緩衝効果が報告されている(岸,1994;野口,1991;柳沢,2002)。

近年では、健康で活動的な高齢者の増加を背景として、ソーシャルサポートの受領よりもサポートの提供が精神的健康に対してポジティブな影響を及ぼすことを明らかにした報告(Vaananen,2005;山本,2005)もみられるようになってきた。ソーシャルサポート研究において参考にされる自己高揚理論(Self-enhancement theory)によれば、援助行動や向社会的行動の実行や社会的比較の結果、自尊感情が向上するとされる(Brown & Smart, 2007)。実際、他者へのサポート提供を目的とした活動は、社会に対するUsefulness(貢献感・有能感)を与え、自己受容、自己の真価に対する基本的な感情である自尊感情(Rosenberg,1965)や主観的幸福感といったウェルビーイングの向上が促進されるといった報告(Krause,1992;金,1999;Tara,2004;岡本,2004;矢庭,2008)も数多くなされている。

一方、ソーシャルサポートの受領と提供の心身に対する影響は個々に検討されることが少なくないが、ソーシャルサポートに関する諸理論によれば、それらは相互に関連している。社会心理学の立場から提唱された社会的交換理論や衡平理論によれば、交換を前提とする対人関係における不衡平は互いにとって苦痛な状態であり、その苦痛を取り除くように各人は動機づけられるとされる(Equity Theory;Walster et al,1978)。すなわち、サポートを受領することによって生

じる負債感等の不衡平は、サポートを返報することによって解消される。このようにサポートの提供と受領は相互に関連することが示唆されている。

このようなソーシャルサポートの受領と提供の均衡性(互惠性)が心身の健康に好ましい影響を及ぼすとする説は衡平理論(Equity Theory;Walster et al,1978)として知られ、これまでも高齢者を対象としていくつかの研究がおこなわれてきた。例えば地域の健康な高齢者を対象とした研究では、ソーシャルサポートの授受の均衡性が保たれているものほど、心理的適応がよいこと(飯田,2000)や主観的健康感や自尊感情が高いこと(林,2006)が報告されている。なかでも、高齢者大学の在籍者を対象とした研究によれば、サポート対象にかかわらず、低い均衡に比べて高い均衡の場合に自尊感情と生活満足感が高いことが報告されている(三浦,2006)。このように、高齢者を対象としたソーシャルサポート研究では、サポート受領からサポート提供、そしてサポートの均衡性へとその関心を移しつつあり、サポートの均衡性が高齢者の心身の健康に及ぼす影響を明らかにすることは今後の高齢者支援を考えていくうえで重要な課題となってきた。

しかしながら、高齢者のソーシャルサポート(ネットワーク)に関する研究の多くは一般高齢者(健康高齢者)を対象としたものがほとんどであり、何らかの疾病や障害を抱えた高齢者を対象としたものは数少ない。要援護高齢者は、疾病や障害のため、ソーシャルサポートの授受が不均衡になりやすい(受領のみになりやすい)など、社会関係の態様が一般高齢者(健康高齢者)と異なる可能性がある。そのため、一般高齢者(健康高齢者)で得られた知見を要援護高齢者へ適用することには限界がある。

## 2. 研究の目的

本研究では以下の2点を目的とした。

(1) 要援護高齢者を対象とし、ソーシャルサポートの授受と自尊感情の関連を明らかにする。

(2) 要援護高齢者のソーシャルサポートと精神的健康との関連を明らかにする。

## 3. 研究の方法

要援護高齢者を対象に2度の質問紙調査を実施した。

(1) 高齢者の社会関係の特徴と自尊感情に関する調査

A市高齢者15,162人のうち、行政区分ごとの高齢者人口割合によりそれぞれ比例抽出した要支援・要介護2の認定者のうち、意思表示可能で調査への同意が得られた者(認定高齢者)200人を対象に質問紙調査を実施した。調査票の配布はA市高齢者支援課および介護支援専門員協会支部に協力依頼をした。記入済み調査票は回答者本人が個別返信用封筒に入れて投函するよう依頼した。調査時期は2010年1月～3月末であった。回答が得られた156名のデータを分析に用いた。後述する(1)の結果は、このデータの解析により得られたものである。

(2) 高齢者の社会関係に関する調査

B県の3県民局管内にある各2市町村に研究協力を依頼し、計6市町村に居住する介護保険の要介護1、2の認定を受けた要援護高齢者600名を対象に無記名自記式質問紙による配票調査(一部回収時に調査員による訪問面接調査を含む)を実施した。調査期間は2014年8月から10月であった。各市およびB県介護支援専門員協会支部の協力により、要介護認定を受けた高齢者を対象に、担当介護支援専門員に対象者への調査依頼文書の配布を依頼した。記入済み調査票は、対象者自らが同封した返信用封筒に厳封の上、筆者の所属機関宛に郵送するように依頼した。回答が得られた489部(81.5%)のデータを分析に用いた。

後述する(2)から(5)の結果は、このデータの解析により得られたものである。

(3) 倫理的配慮

両調査の実施にあたり次のことに配慮した。まず、調査への協力は任意であり、本調査と介護支援専門員からの今後の支援とは全く無関係であることを書面および口頭で説明した。また、本研究の目的と内容について書面および口頭で十分に説明し理解を求めた。調査の際は、調査票に研究の趣旨、研究協力中断の保証、匿名性の確保、守秘義務、拒否による不利益を被らないこと、研究以外の目的に使用しないことを明記し、自由意思での回答を依頼するよう徹底した。調査後は個別封筒で郵送にて回収した。なお、本研究は新見公立大学倫理委員会の承認を得て実施した。

## 4. 研究成果

本調査の結果を以下に示す。

(1) 要援護高齢者のソーシャルサポート授受パターンと自尊感情との関連

得られたデータから、ソーシャルサポートの類型化を行うために、提供サポートおよび受領サポートの中央値を算出し、それぞれを高群/低群に分類した。手段的サポートと情緒的サポート各々の受領・提供得点を中央値で高/低に分け、それらを掛け合わせた4類型(「高受領 - 高提供(高交換型)」、「低受領 - 低提供(低交換型)」、「高受領 - 低提供(受領優位型)」、「低受領 - 高提供(提供優位型)」を設定し、サポートの授受パターンとして分析に用いた。手段的サポートでは男性は受領優位型よりも高交換型、女性は低交換型よりも提供優位型で自尊感情が有意に高かった。情緒的サポートでは、男女ともに低交換型よりも高交換型において自尊感情が有意に高かった。以上の結果より、要援護高齢者の自尊感情を維持するためには、サポート

提供できる機会および過度のサポート受領に伴う心理的負債感軽減のための支援の重要性が示唆された。

### (2)在宅要援護高齢者の社会的孤立の実態とその関連要因

社会的孤立の測定には Lubben Social Network Scale 6 項目短縮版(LSN-6)を用いた。LSN-6の平均は $13.7 \pm 6.1$ 点、「社会的孤立(12点未満)」に該当する者は178名(38.0%)であった。分散分析の結果、前期高齢者、独居、義務教育のみ修了、居住年数10年未満、経済的ゆとりがない、日常生活自立度が低い、通所系サービスを利用していない者は、そうでない者よりもLSN-6の平均値が有意に低く社会的孤立傾向にあった。以上より、要援護高齢者においては、年齢や身体機能といった身体的要因のみならず、世帯構成や教育歴、経済状態等の社会経済的要因も社会的孤立のリスク因子となりうる可能性が示唆された。

### (3)要援護高齢者の社会関係の特徴と精神健康の関連

ソーシャルサポートの測定には、Cutrona & Russell(1987)が開発した Social Provision Scale (SPS) を日本語訳化し使用した。SPSは、1) 愛着(Attachment)、2) 社会的統合(Social integration)、3) 養育する機会(Opportunity for nurturance)、4) 価値の再確認(Reassurance of worth)、5) 頼りになる協力(Reliable alliance)、(6) 指導(Guidance) の6下位尺度計24項目で構成される。男性では、愛着のみ精神的健康とのあいだに有意な関連がみられた( $r = .472, p < .001$ )、女性では、指導( $r = .316, p < .001$ )、価値の再確認( $r = .308, p < .001$ )、養育する機会( $r = -.168, p < .015$ )と精神的健康のあいだに有意な関連がみられた。

要援護高齢者においても、ソーシャルサポートは精神的健康を維持・増進する上で重要

な因子である可能性が示唆された。ただし、どのような特性が重要かは男女によって異なる可能性があり、今後支援を検討するには性差を考慮する必要がある。

### (4) 要援護高齢者のソーシャルサポートの特徴と自尊感情の関連

自尊感情の測定には、高齢者調査で用いられている Rosenberg の自尊感情尺度5項目を用いた。自尊感情得点は男性が $15.5 \pm 3.6$ 点、女性が $15.4 \pm 3.9$ 点であった。自尊感情と有意な関連を示したソーシャルサポートの各側面は、男性では価値の再確認( $r = .236, p < .005$ )、頼りになる協力( $r = .209, p < .005$ )、女性では価値の再確認( $r = .314, p < .0001$ )、頼りになる協力( $r = .268, p < .0001$ )、養育する機会( $r = -.142, p < .005$ )、社会的統合( $r = .148, p < .005$ )であった。

要援護高齢者の自尊感情は健康な地域高齢者と比べて低い傾向にあった。また、自尊感情に関連するソーシャルサポートの側面は男女で異なっていた。男性においては、承認してくれる存在や頼りになる支援者の存在、女性においては、それらに加えて、親密な絆で結ばれた存在や自分を頼りにしてくれる存在が自尊感情の維持・回復に重要であることが示唆された。

### (5)要援護高齢者における閉じこもりの実態とその関連要因

閉じこもりを「週1回程度以下」の状態と定義し、さらに、移動能力が低く閉じこもっている状態を「タイプ1」、移動能力が高いにも関わらず閉じこもっている状態を「タイプ2」に分類し「タイプ1」閉じこもり群と移動能力が高い非閉じこもり群を比較した場合、「タイプ1」閉じこもり群のほうが友人ネットワークの規模が小さい、社会的サポートが少ない、自尊感情が低い、主観的健康感および精神的健康が低い、通所系サービスの利用

が少ないことが示された(いずれも  $p < .05$ )。

要援護高齢者においては、移動能力の低下に加え、友人ネットワークの縮小やそれに伴う社会的サポートの減少、精神的健康の悪化が「タイプ 1」閉じこもりの要因となる可能性が示唆された。したがって、「タイプ 1」の閉じこもり予防には、孤立化の防止と精神的健康の維持・改善を図ることが重要といえる。

#### (6)今後の展望

本研究の結果より、要援護高齢者の自尊心および精神的健康を維持・向上するためには、性差を考慮したソーシャルサポートが提供できる機会および過度のサポート受領に伴う心理的負債感軽減のための支援の重要性と親密な絆で結ばれた他者の存在が重要となる。

さらに今回の結果から、要援護高齢者は、限られた特定のソーシャルネットワークのなかで、社会関係を営んでいる可能性が高い。地域で社会活動を継続することは、心身の健康や主観的幸福感などに強い影響を及ぼすことが広く認められていることから、今後、ソーシャルネットワークおよび社会活動を維持できる場づくり等の支援の必要性がある。

地域における高齢者やその家族の孤立化を防止するためにも、いわゆる社会的に支援を必要とする人々に対し、社会とのつながりを失わせないように取組を推進していくことが重要となる。

今回の調査は一県内の 6 市町村の介護支援専門員を通じて調査票の配布がなされたことにより、調査対象の偏りが生じた可能性がある。今後は要介護 1 から 5 までを含めた様々な対象においてソーシャルサポートに関する実態を明らかにしていく必要がある。今後の社会家族・親戚・友人・近隣に該当しない他者とのネットワークについても今後の課題としたい。

今後、わが国では高齢者夫婦世帯および単身世帯の増加が見込まれている。特に高齢

者単身世帯の社会的孤立は深刻な課題となっているが、その世帯がやがて要支援、要介護状態になっていく可能性が高い。ソーシャルネットワークの不足は、孤独感、抑うつや早期死亡などのさまざまな健康問題に関連することが明らかにされており、都市部、中山間部を問わずソーシャルネットワークの維持を図り社会的孤立を避けるような支援が求められる。「高齢社会対策大綱(平成 24 年 9 月 7 日)」にあるように、地域における高齢者やその家族の孤立化を防止するためにも、いわゆる社会的に支援を必要とする人々に対し、社会とのつながりを失わせないように取組を推進していくことが重要となる。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 5 件)

矢庭さゆり, 矢嶋裕樹: 要援護高齢者の社会的孤立の実態とその関連要因. 新見公立大学紀要, 36, 1-6, 2015.

矢庭さゆり, 矢嶋裕樹: 地域高齢者における親密な他者の有無とその関連要因. 新見公立大学紀要, 34, 37-40, 2013.

矢庭さゆり, 矢嶋裕樹: 在宅要援護高齢者における精神的自立性と生活満足感の関連. 新見公立大学紀要, 33, 95-99, 2012.

矢庭さゆり, 矢嶋裕樹, 難波峰子, 二宮一枝, 香川幸次郎: 要援護高齢者のソーシャルサポート授受パターンと自尊心との関連; サポート種別での検討. ケアマネジメント学 11, 査読有, 日本ケアマネジメント学会, 72-82, 2012.

矢庭さゆり: 地域高齢者のソーシャルサポートの授受パターンと自尊心との関連. インターナショナル Nursing Care Research, 査読有, 11 (4), 77-85, 2012.

[学会発表](計 5 件)

矢嶋裕樹, 矢庭さゆり: 地域高齢者における親密な他者の有無とその関連要因. 第 74 回日本公衆衛生学会, 長崎ブリックホール

(長崎県・長崎市),2015.11.4.

矢庭さゆり, 矢嶋裕樹: 軽度要援護高齢者の社会的孤立のリスク. 第74回日本公衆衛生学会, 長崎ブリックホール(長崎県・長崎市),2015.11.4.

矢庭さゆり, 矢嶋裕樹: 地域高齢者における親密な他者の有無とその関連要因. 第72回日本公衆衛生学会, 三重県総合文化センター(三重県・津市),2013.10.24.

矢嶋裕樹, 矢庭さゆり: 高齢者家族介護者におけるサポート希求の実態とその関連要因. 第71回日本公衆衛生学会, サンプル - ト国際ホテル山口(山口県・山口市),2012.10.26.

矢庭さゆり, 矢嶋裕樹: 要援護高齢者における精神的自立性の実態とその関連要因. 第71回日本公衆衛生学会, サンプル - ト国際ホテル山口(山口県・山口市),2012.10.26.

[その他](計1件)

矢庭さゆり: 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金基盤研究(C)), 課題番号24593466 [要援護高齢者のソーシャルサポートに関する研究], 平成24年~平成27年度研究報告書,2016.3 発行(連携協力者;矢嶋裕樹).

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

矢庭 さゆり (YANIWA, Sayuri)

新見公立大学・看護学部・看護学科・教授  
研究者番号: 40390249

### (2)連携研究者

矢嶋 裕樹 (YAJIMA, Yuki)

新見公立大学・看護学部看護学科・准教授  
研究者番号: 00550469